

報告事項

経済振興委員協議会報告資料

ヨットハーバーの民営化の検討状況について

令和元年 10 月
港 湾 空 港 局

1. これまでの経緯

平成30年2月議会報告 民営化の方向性

ヨットハーバーが目指すべき将来像

今まで果たしてきた機能

- マリーナ機能
- 海洋性スポーツの普及振興
 - ・ 市民ヨット教室の開催
 - ・ 学生ヨットの振興 など

追加すべき機能

- スポーツ・レクリエーション機能
- 自由な収益事業の展開
 - ・ 絶好のロケーションを活用した集客事業
 - ・ 隣接する小戸公園との連携 など



多機能型マリーナ

関係者からも国内最高評価の
「ヨット環境の維持・強化」

広く市民に開かれた
「親水・憩いの空間の提供」

<事業者ヒアリング>

- ・ 日本でも有数のヨット環境を有している。
- ・ 絶好のロケーションに恵まれている。
- ・ マリーナ事業では収益が低く、自主事業で補う必要がある。
- ・ 現在のエリアでは狭く、幅広いエリアで検討する必要がある。
- ・ 小戸公園との連携による相乗効果でエリア全体が良くなる。

平成30年9月議会報告 検討の視点拡大と検討期間の延長

■ 検討の方向性

多機能型マリーナの実現

ヨット環境の
維持・強化

広く市民に開かれた
空間の提供

更なる魅力の向上

検討の視点を広げることで
新たな魅力となる賑わいを創出していく

新たな方向性

ヨット環境の強化

新たな賑わいの創出と
回遊性の向上

海に親しむ環境づくり

検討
エリア
の
拡大

新たな
価値
の
創出

平成30年12月議会 検討の状況

「新たな価値の創出」の方向性を取りまとめ、2020年度（令和2年度）に民営化の公募を実施する。

■ 今後の取組み

博多湾西部の新たな価値を創出していくための基本的な考え方について、方向性をとりまとめる。

■ 検討体制

博多湾西部の新たな価値の創出に係る方向性について関係局が連携して検討を行う。

<関係局> 港湾空港局, 住宅都市局, 道路下水道局, 西区

2. 博多湾西部の新たな価値創出の検討状況

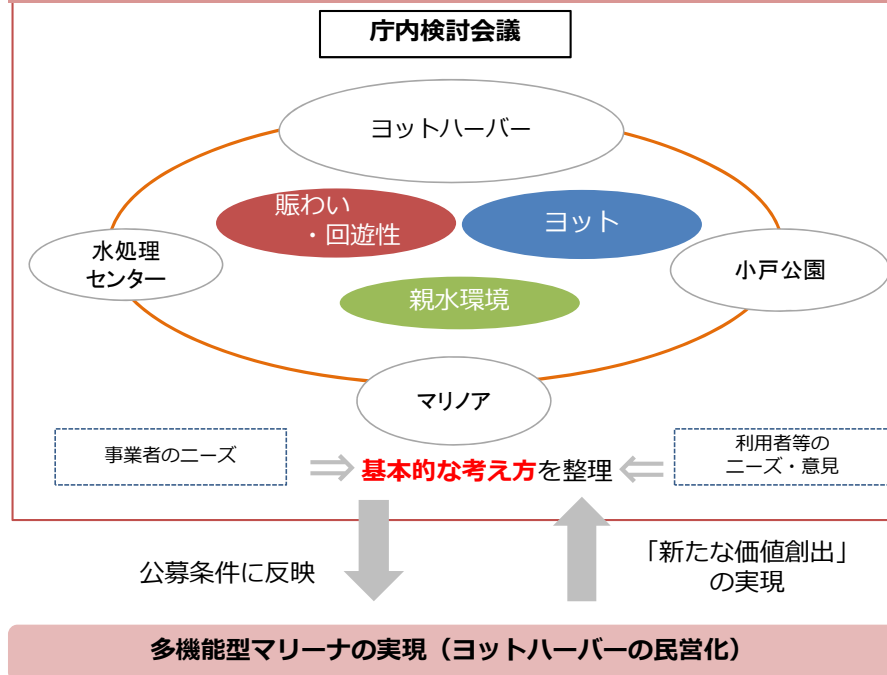
(1) 検討エリア



マリーナ～小戸公園～ヨットハーバーへとつながる海と緑に
囲まれた自然豊かな博多湾西部地域のポテンシャルを活かし、
新たな価値を創出する。

(2) ヨットハーバー民営化との関連性

博多湾西部地域の新たな価値の創出



(3) 検討状況

【主な検討内容】

博多湾西部の新たな価値の創出に係る基本的考え方を関係局とともに検討

検討項目	検討内容	考え方の方向性
ヨット環境の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学生のヨット競技環境の確保 ○ ヨットへの関心の高まりと愛好者・競技者の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ⇒ 学生の練習環境の維持、大会開催の支援継続など ⇒ ヨット教室の拡充や関連事業の実施等、市民イベントの充実化
新たな賑わいの創出と回遊性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 施設・エリアに応じた賑わい ○ 効果的な施設間の連携方法 ○ 楽しみながら回遊できる仕組み 	<ul style="list-style-type: none"> ⇒ 施設の特徴や実態を活かした賑わいの創出 ⇒ イベントの共同実施などソフト面での連携を中心 ⇒ イベントの活用や周遊コースの設定など各施設の利用者を他施設へ誘導する仕掛けづくり
海に親しむ環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多様なアクティビティの導入 ○ 学校や地域における海に関する自然活動の場の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ⇒ 砂浜エリアと水域の有効活用と満足度の高いメニューづくり ⇒ 海岸の浅瀬を活用した海の世界に係る活動の促進

【ヒアリング・アンケートの実施】

検討の参考とするため、ヨットハーバーの利用者、ヨット教室参加者や公園利用者等に意見を聴取

対象	実施方法	主な意見
ヨットハーバー既存利用者 (ヨットオーナー・学生等)	ヒアリング アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生のヨット環境を確保してほしい。 ・ 市民に対するヨットやマリンスポーツの普及活動を行ってほしい。 ・ 民営化によって利用者の負担が急激に増加することのないようにしてほしい。
市民・施設利用者 (ヨットハーバー・小戸公園)	アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海の景色を楽しめる場所である。 ・ ヨットやマリンスポーツ体験が気軽にできると良い。 ・ 豊かな自然環境が守られて欲しい。 ・ カフェや飲食店が欲しい。 ・ 宿泊施設があると良い。 ・ 気軽に利用できる場所になると良い。 ・ ヨットを見ながらゆっくりしたい。
事業者 (マリナー事業者・開発事業者等)	ヒアリング	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夕日とヨットの景観は貴重である。 ・ イベント等での連携によりエリア内の賑わいを創出できる。 ・ バーベキューやスポーツイベントでの連携が考えられる。 ・ 回遊性を高める共通の広報ツール等がないことが課題と感じている。 ・ 海岸や水域はマリンスポーツに最適である。

3 今後のスケジュール

